

# インプラント治療に信頼の技術 充実したHPで診療情報を発信



加藤院長と親切なスタッフ(診療室にて)



第2待合室(Plastic lounge)



## 院長 加藤 清志

1988年北海道医療大学卒業後、同大歯科保存学第1講座(歯内・歯周治療学)入局。苫小牧市立総合病院で歯科口腔外科を研修。94年大町歯科加藤医院院長に就任。日本全身咬合学会認定医、日本顎咬合学会認定医、日本歯科東洋医学会認定医・理事、日本歯科先端技術研究所口腔インプラントフェロー、日本口腔インプラント学会専門医、北海道警察歯科協力医会会員、苫小牧歯科医師会会長。苫小牧市内の各学校歯科医も務める。

おいしい食事を、自分の歯で食べ続けられる喜び。そうした健やかな長寿ライフを支えるのが、歯周病予防をはじめとする口の中の健康。しかし、大切な歯を失った人たちのために、ブリッジや入れ歯。さらに第3の歯として、インプラントがある。会員数約1万4千人のうち、約1千人しかいない公益社団法人、日本口腔インプラント学会専門医の加藤清志院長はインプラント治療で多くの症例を手掛けてきた。その安全性と技術の高さには定評がある。

インプラント手術に際しては、歯科用CT、X線写真撮影などに基づくコンピュータでのシミュレーションを行い、3Dプリンターで原寸大の顎骨立体模型を作成。入念な計画の下、より安全に配慮した形で人工歯根の埋入が行われる。「できるだけ適切な計画を立てて手術を行っており、なるべく腫れたり、痛んだりしないよう心掛けています」と患者さんをいたわる院長。術後は、ほとんどの場合普通に食事が取れるようになるという。

ブリッジのように隣の歯を削ることもなく、審美面での回復も可能にするインプラント。あごの骨が経年的に痩せて不安定になる入れ歯に比べ咀嚼(そしゃく)能力も高

く、毎日の食事をおいしく味わうことができる。一方、入れ歯の安定に悩む方向けには、アンカーとしての活用法もあるという。このように利点の多いインプラントだが、天然歯の歯周病と同じように、適切な手入れを怠れば周囲炎を引き起こすケースもあるが、当院では患者さんごとに合わせたケアを行っている。

「歯を失わないよう、日常のケアこそが大切」であることは言うまでもない。それでも、口の中のトラブルを、自力では防ぎ切れないのが多くの人が抱える悩み。自覚症状がなくても定期的に、診察を受けるのが最善の予防法となる。

市中心部に開業して88年。1957年に建てられた現施設は2007年にリフォーム。レトロとモダンが融合した医院に生まれ変わった。落ち着いたたたずまいの第2待合室(1階)は癒やしの空間。「治療を終えた患者さんが休んだり、同伴の方がくつろいだりされています」と3代目の現院長はこやかに語る。

メール、院長直通電話 0144-322239 平日19~20時の間、無料相談を受けている。ホームページには院長の活動実績や診療日カレンダーも掲載している。

歯科・矯正歯科

歯科

## 大町歯科加藤医院

苫小牧市大町2丁目4番6号 ☎(0144)32-2209  
ホームページ <http://oomachishika.com/>  
携帯 <http://oomachishika.com/mobile/>

診療時間/  
平日/9:00~12:30 14:00~18:30  
(受付は17:30まで)  
土曜/9:00~13:30  
(学会・会議のため休診あり)  
※予約制  
休診日/日・祝日・原則第2、第4木曜日午後

